

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスの意味を職員全員が認識して、地域の中でのふれあいを大切にしている。 ・経営理念と運営方針はよく見える所に掲示している。	職員が見やすい場所に理念を掲示し、日常業務の中で意識しながら、介護に取り組んでいる。また、ミーティング時、理念について職員同士で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者の状況から考えて、なかなか出向いて行く事が困難な為、地元の小・中学生やボランティアを通じて、ふれあいを深めている。 ・月に1～2回のボランティアを計画している。	地元イベントに積極的に参加している。その際、地元の方を施設に呼んで、交流の機会を設けている。また、地元の民生委員や近所の方々、近隣の家族が施設へ気軽に立ち寄ってくれたり、隣接地にあるデイサービスや特養へ遊びに行くことで地域の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域で開催される研修や会合にはできるだけ参加するようにしている。(管理者、職員問わず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は偶数月に行っている。議題について参加者で話し合い、意見や指導を参考にして現場で実践している。	2ヶ月に一回行っており、会議で出た意見等についてはミーティングを利用して話し合い、サービスの向上に努めている。また、民生委員から地域の情報を提供してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には市町村の出席を頂き、その時の助言・指導を参考にして対応している。 ・時には市町村に相談に行くこともある。	運営推進会議に市町村の方が積極的に参加してくれている。また、美作市内のグループホームが集まって交流会を催しており、その際にも参加を促し、市町村との繋がりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・出入口、玄関の施錠はしておりません。 ・不穏になられた利用者の方には職員と散歩に出かけるなどして、気分転換をしている。	3ヶ月に一度、母体を含む全グループ施設職員を対象とした会議の中で、身体拘束についての勉強会を行っている。また、外部研修にも積極的に参加し、拘束しないケアに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の認識は、職員全員認識しております。 ・施設内での研修(勉強会)も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・この制度を必要とされる利用者の方はおられないので、管理者(職員含)は研修に出席している。 ・職員全員に復命書での認識はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時、契約書、重要事項説明書の説明は充分しているので、ご家族には理解して頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・H21.5月に家族の会を発足し、その会員の方を中心に輪を広げ、意見や要望を聞き、職員全員で検討し実行、実施している。	家族会を発足してから、率直な意見や要望が家族から汲みだせるようになってきている。また、家族に対しても職員から何かあれば相談できるような関係が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定例の職員会議、毎日の申し送りで話し合い、意見交換をしている。	月1回の職員会議を利用して、職員の意見や要望等を聞いたり、また、日々の業務の中で職員個々から意見等を聞き取るようにしている。職員から出た要望等は母体へ汲み上げ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得に該当する職員には、研修に行く様に勧めている。 ・時々ストレス調査を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員とコミュニケーションをとる機会を作り、不満、苦情を聞くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者、ケアマネージャーが出席しての市内での会合には、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所の申し込みを頂いた利用者の方には事前に面談を行い、思い、生活状態、心身の状態などを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人に対して、また、事業所に対して家族が求めているものは何かを聞き、信頼関係を築くことに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・早急な対応を求められる方については、ケアマネージャー、また、他の事業所と連携をとり、柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・その時の状況から、本人の気持ちや思いを理解し、さりげなく見守るケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族来所の時は、居室、又はホールで本人とゆっくり話す時間を過ごしていただく。 ・行事には出来るだけ参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・時々、車で実家の近くに行ったり、地区の方が来られるデイサービスに遊びに行ったりしている。 ・馴染みのある方に会える機会を作っている。	本人がこれまで大切にしてきた環境を大切にしている。例えば、施設行事の時、ケアハウスや特養へ行った元利用者を呼んだり、家族と一緒に実家へ戻ったりしながら、周辺環境との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・できるだけソファでゆっくりとくつろいで頂く時間を作る。 ・どうしても合わない方については席を変えたり、座る位置を考慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約を終了した方にも行事の案内を出したり、立ち寄っていただけるように声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者一人ひとりとゆっくり話をしたり、触れ合う時間を作るようにしている。 ・昔の話等をし、本人の思い出などを聞き出す様な状況を作る。	1対1で関わる時間が持ちにくい為、レクリエーションや入浴介助の中で職員と一緒に楽しくゆったりと話せる時間を大切にしている。利用者から孤独感を払拭し、各自のペースで生活してもらえ様、見守りを通じた把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりを大切に思う気持ちを伝え、安心して生活していただけるように配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの生活リズムや状況を考えながら、入浴や昼間の臥床など取り入れる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月に一度モニタリングを行い、利用者主体のケアを考えている。 ・職員には担当者会議で徹底している。 ・家族には面会時に報告している。	担当制を取っており、カンファレンスの中で意見を出し合い、確認しながら計画している。また、毎月モニタリングしており、状態変化に応じた、本人本位のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・定例の職員会議や毎日の申し送りを通じて、利用者の変化や状況などの共存をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・既存のサービスに促されない柔軟な支援やサービスをし、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との意見交換会を行う。 ・訪問理容(地域の業者)を活用している。 ・第三者委員会を立ち上げ、意見を聞く。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、利用者全員受診を行っている。 ・かかりつけ医とは、常に連携を取り、状態に応じて(緊急を含む)受診している。 	月1回、定期受診している。緊急時には、往診をお願いしている。また、訪問看護を導入しており、主治医との連絡・報告体制も適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週一回(火曜日)訪問看護を取り入れている。(ささいな事でも相談できるので心強いところがある。) 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院の場合は病状等について家族と話し合い、情報の交換をしながら一日おきに見舞うようにしている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期についての方針は事前に家族とよく話し合いをし、家族の要望や意志を十分把握した上で、ターミナルケアの希望があれば希望に応じている。 	入居前に終末期の方針を家族に伝えており、終末期にはその都度、主治医、家族と話し合いの上、今後の対応について決定している。終末期ケアについては、全体職員会議の中で、特養の看護師の方から指導もあり、職員全員が共有し、一つの方向に向かって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員が参加する勉強会を実施している。テーマを変えて3ヶ月に一度実施している。(実技を含む) 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は年に3回実施している。 ・事業所内での消火訓練にも参加する。 	年3回、避難訓練を実施している。利用者が不安にならない様、普段から対応に気を付けている。また、近隣住民や地域消防の方が参加しての訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・特にトイレ介助。入浴介助の際は、言葉かけに充分配慮している。	「居室にはノックして入る。フルネームで声かけする」等、利用者さんへのプライバシーや、誇りを重視した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入浴やその日の衣類については、本人の意志を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人が一番良い状態で生活して頂くよう配慮している。 ・好きな事をして頂く。 ・何をしたらいいのか分からない方には声かけをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類は自分が選んだ物を身につけるようにしている。 ・行事の時等、化粧をしたり、派手な服を着たりして、お洒落をする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者とは話し合っメニューを決める機会を作る。 ・食器や盛り付けにも工夫する。	季節の食材を使用したり、ランチョンマットを使用しながら、楽しんで食事が出来るように工夫している。また、嚥下が困難な利用者にも食べやすい形にして提供するなど、個々に応じた支援に努めている。	食事の際、車椅子から椅子へ乗り換えることで、「自立支援やりハビリに繋がるのでは」と感じました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・見た目と栄養のバランスを考えながら調理をする。 ・カロリー摂取量については、栄養士がチェックしている。(年に3回)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後のうがい、歯磨き、義歯磨き。 ・うがいの出来にくい利用者はガーゼ等でケアをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ誘導、排泄介助の声かけには充分気を付けている。 ・自尊心を傷つけない様に配慮する。 	<p>トイレでの排泄を促しており、排泄記録や利用者の行動パターンを確認しながら、自立に向けて支援している。また、プライバシーに配慮した排泄支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘症を持っておられる方については、かかりつけ医と相談しながら対応している。 ・一時的な便秘の方には食べ物で工夫する。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は一人ひとりに声をかけ、出来るだけ多くの方に入って頂く。 ・羞恥心、恐怖心には充分注意する。 	<p>入浴日は特に決めておらず、利用者が自由に入浴できる様、支援している。また、特浴も週2日あり、のんびり入浴してもらう事を念頭に置き、入浴支援に取り組んでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一日中離床が無理な方については、夜の就寝に差し支えない時間にする。 ・昼夜逆転しないように気を付ける。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬ファイルを作成して、職員が内容を把握できるようにしている。 ・体調の変化が見られる時は、かかりつけ医にすぐ相談する。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが、楽しみながら出来るように声かけをする。 ・簡単な役割を作っている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物は時々、利用者と一緒に行く様にしている。 ・金融機関に用事の時等、少しドライブをしたりする。 	<p>近くのスーパーへ買い物に行ったり、散歩に出かけたりしている。また、ご家族が来訪して、一緒に外出することもある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族より、お小遣いとして現金を預かっているため、その中からホーム内でバイキング等して好きな物を買う。 ・買い物に出た時も一品だけ買う。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から電話をしてほしいとの希望があった時は、その場でする。 ・手紙のやり取りは自由にしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール、居室内を明るい雰囲気にするように配慮している。 ・壁飾りなどで、季節感を取り入れる。 ・レクリエーションの中で、時期の話をする。 	居心地良く生活してもらうために、温度・湿度管理に気を付けている。また、共有空間の周囲にテープを貼り、午前・午後の歩行訓練に役立っている。和紙を用いた電灯で、温かい空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室、または、ソファで自由にくつろいで頂ける雰囲気を作る。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方には馴染みの品等、持って来て頂いている。 ・寝具、シーツ等にこだわりのある方については、希望を重視している。 	居室は、利用者の思い思いの飾りで彩られており、中には畳を敷いてくつろげる様に工夫している方もいる。入居前には、馴染みの物を持って来てもらうよう声かけしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内は本人が分かりやすい場所に物を置く。 ・危険に繋がる物以外は、自由に使えるようにしている。 		